

第66回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和4年11月21日（月）17：40～19：10

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

小谷野 和博 埼玉県中小企業団体中央会 会長

坂木 晴世 国際医療福祉大学大学院 准教授

讃井 将満 自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長

竹田 晋浩 かわぐち心臓呼吸器病院 理事長・院長

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

三村 喜宏 埼玉県商工会連合会 会長

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

高田 直芳 教育長

金子 直史 福祉部長

三須 康男 危機管理防災部長

山崎 達也 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

板東 博之 産業労働部長

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価

- 現状で、また夏ぐらいの感染者数になったとしても今の感覚からすると重症度はそう変わらないだろうというふうに思われ、病床数さえ確保ができていれば対応ができるのではないか。（竹田委員）
- 第7波のように急激な上昇は見られない理由は、クラスター対策など、これまでの対策が功を奏してきているのではないか。（松田委員）

イ 今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に想定される 対応について

- レベルに関しては、ボーダーラインをどうするかが重要である。病床使用率や重症病床使用率などは要素であるが、地域で状況が異なるため、自治体ごとの戦略や状況に応じた判断となる。（岡部委員）
- オミクロン株に対応した新たなレベル分類について、埼玉県をレベル2とすることについて、異議なし。（一同）

【県の対応】

- 埼玉県のレベル分類は、「レベル2」とする。